

学会：第 42 回受精着床学会

期間：2024 年 8 月 22～23 日

会場：大阪(大阪国際会議場)

0-102 胚移植周期、方法別の出産リスクの後方視的検討

堀金聖羅 佐藤学 森本義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】ホルモン補充周期融解胚移植(HRC-FET:HRC)は、排卵障害の症例には特に有効だが、日程調整の利便性から多用されてきた。しかし近年、癒着胎盤の増加リスク等が報告され懸念点がある。今回安全な妊娠・出産をめざして当院の移植周期および方法別の後方視的検討を行った。

【方法】対象は2021年1月～2022年12月に胚移植した2198周期。

検討1:HRC(1838)、自然周期融解胚移植(NC-FET:NC、202)ならびに新鮮胚移植(fresh-ET:fresh、158)それぞれの臨床的妊娠率、妊娠あたりの出産率、産科合併症、分娩合併症および癒着胎盤を伴った割合を比べた。

検討2:単一分割期胚移植(SET、613)、単一胚盤胞移植(SBT、1039)、分割期胚2個移植(DET、373)、胚盤胞2個移植(DBT、26)、二段階胚移植(2step、147)を検討1と同様に比べた。

【成績】検討1:周期別の妊娠率と出産率はそれぞれ、HRC:32.4%、74.0%、NC:29.2%、74.6%、fresh:24.1%、76.3%で、妊娠率がHRCはfreshに比べ高く($p<0.05$)、出産率に差はなかった。産科合併症、分娩合併症、癒着胎盤の割合はそれぞれ、HRC(3.6:28.5:3.9)、NC(4.5:20.5:2.3)、fresh(0.0:17.2:3.4)で差はなかった。

検討2:方法別の妊娠率と出産率はそれぞれ、SET(18.8:65.2)、SBT(42.0:78.9)、DET(18.5:63.8)、DBT(34.6:66.7)、2step(43.5:70.3)でSBTと2stepがSET、DETに比べ高かった($p<0.05$)。産科合併症、分娩合併症、癒着胎盤の割合はそれぞれ、SET(4.0:18.7:1.3)、SBT(3.2:29.1:3.2)、DET(2.3:25.0:4.5)、DBT(0.0:3.3:0.0)、2step(4.4:28.9:11.1)で、産科合併症と分娩合併症に差はなかったが、癒着胎盤率は2stepがSET、SBTにくらべ高かった($p<0.05$)。

【結論】HRCとNCに妊娠率の差はなくホルモン補充を行わずとも成果を得られた。freshで妊娠率は低く、採卵周期と移植周期を分けた方が現状は良いと考えられる。またHRCで分娩合併症が増える傾向がみられた為、NCがより安全な方法となりうる。2stepもSBTと同様

[ここに入力]

に妊娠率、出産率は高いが癒着胎盤のリスクが高く注意が必要である。

【ここに入力】